



# 校長室だより

Newsletter from the Principal 校長簡訊



## 私の進路選択

新堀 隆久

私は子供の頃から学校の先生になりたいと思っていました。高校に入ってから、英語と地理が得意だったので、大学に行って英語か地理の先生になろうかなとぼんやり考えていました。数学と理科が大の苦手で、テストでも学年で下から一桁の順位を取っていたので、自ずと理系の勉強から逃げて、英語と地理ばかり勉強していました。次第に、好きな英語と地理を生かして、国際的な仕事をしてみたいと思うようになりました。しかし、英語をマスターする自信もないし長男だし地元に残って先生になったほうが親孝行だろうな、とも思い、3年生になっても受験する学科が定まりませんでした。

当時はインターネットもありませんから、進路の情報源は受験雑誌や高校の先生に聞くしかありませんでした。大学に出願する時期になっても、迷いは解消されず、親に頼み込んで、いろいろな学科を受験しました（日本文学科、史学地理学科、国際関係学科、モンゴル語学科、教育学科など）。当時は推薦入試も総合型選抜もほぼなかったもので、一般入試の一発勝負です。合格したところに行けばいいか、などと安易な考えでいたのです。

3月、すべての受験が終わり合格が出そろいました。合格したのは日本文学科と国際関係学科でした。日本文学科は東京でしたが、国際関係学科は京都でした。また迷いました。先生にはなりたいたい、でも国際関係も学んでみたい。あいにくその国際関係学科では、教員免許（先生になるためには必須）が取れませんでした。京都じゃ遠いと親は心配し、教員免許も取れない、自ずと東京の大学に行くことになりました。

今思えば、もっとしっかり調べたり、やりたいことを明確にしたりしておけばよかった、という気持ちもあります。しかし、自分で決めて選んだ道を、後悔しないように生きることのほうが大切だと感じています。結果的に国語の教師になりましたが、まったく後悔はありません。みなさんも、悔いのない進路選択のために今何ができるか、何をしたらよいかを、よく考えましょう。まずは、中間テストがんばりましょう。



調理実習